

政策評価シート(中期基本計画期間)

基本構想	交通環境と防災対策の向上
背景と現状	<p>便利でコンパクトな町という特性を活かして、町民にとって身近で利用しやすい公共施設の充実と、駅前広場や主要な道路の改良、公共交通の確保等により、交通環境の充実を図ります。</p> <p>また、喫緊の課題である大震災等の災害に備えるとともに、家庭、地域で町民同士の協力と支え合いによる減災文化が根付くまちづくりを進めます。</p>

取組状況

	重点的方針	内容	実績の推移			備考
			H28	H29	H30	
1	災害や犯罪に備える地域づくり	<p>町民が安心して住み続けられる町にするためには、災害時でも安全性を確保できるまちづくりが重要となります。</p> <p>大規模な震災をはじめ、台風による高波被害、ゲリラ豪雨による都市型水害等の災害に対応するため、町民と協力・連携した防災・減災まちづくりの推進を図るとともに、消防・救急活動体制の強化を図ります。</p> <p>また、地域による防犯体制の充実や交通安全対策等、安全・安心なまちづくりを推進し、全ての町民が危険や不安を感じることはないような体制づくりに努めます。</p>	A	A		
2	公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	<p>高度経済成長に伴い、昭和40年代以降、多くの公共施設を整備してきましたが、現在では老朽化が進み、また、人口やその構成が変化していることから、公共施設のあり方について、見直す必要があります。</p> <p>そこで、公共施設の総合的なマネジメントにより、施設の適正な配置と維持管理を推進するとともに、戦略的な有効利用を図ります。</p> <p>また、コンパクトな町域に市街地を形成している町の特徴を活かしたまちづくりを進めるため、計画的な土地利用の誘導を図り、誰もが移動手段を確保できるような、交通網の形成を図ります。</p>	A	A		

町民満足度調査の結果

H30加重平均値 重要度3.97／満足度2.97

	設問内容	重要度		満足度		備考
		前回調査(H27)	H30	前回調査(H27)	H30	
	3-1 災害や犯罪に備える地域づくり	4.20	4.02	3.22	3.12	
1	消防・救急活動の充実強化	4.45	4.30	3.53	3.49	
2	交通安全・防犯施設の充実強化	4.40	4.25	3.37	3.18	
3	消費生活	3.81	3.72	3.09	3.02	
4	地域の安全力の向上	4.11	3.77	3.38	3.10	
5	自助活動の推進	4.16	4.03	3.12	3.04	
6	共助活動の推進	4.08	3.93	3.14	3.08	
7	公助活動の危機管理体制の強化	4.42	4.13	2.93	2.93	

	3-2 公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり	3.99	4.03	2.91	2.81	
1	適切な土地利用の推進・快適な住環境の整備誘導	3.95	4.19	2.9	2.61	
2	交流ゾーンの検討	3.59	3.53	2.93	2.93	
3	道路の整備と管理	4.29	4.31	2.82	2.67	
4	地域交通の確保	4.21	4.24	2.83	2.77	
5	公園・広場の充実と適切な管理運営	4.06	3.96	2.96	2.80	
6	安全で効率的な情報システム運用	3.86	4.05	3.01	2.97	
7	公共施設の適正な維持管理・再編		3.90		2.93	
【その他町民意見(日頃からの町民の反応や問い合わせについて)】						

総合評価	<p>A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある</p>		A
	説明	<p>重点施策の評価状況(平成29年度)は、「A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため現状維持」が2施策、前年度と比較し、同じ評価結果となった。 町民を対象とした町民満足度調査の重要度を前回値と比較したところ、「適切な土地利用の推進・快適な住環境の整備誘導」「道路の整備と管理」「地域交通の確保」「安全で効率的なシステム運用」の項目で上昇しており、いずれも加重平均値を上回っている。 満足度については、「公助活動の危機管理体制の強化」「交流ゾーンの検討」以外のすべての項目で下降している。 また、重要度と満足度を比較すると、「重要度」が高いにも関わらず、「満足度」が低い結果となっているのは、「公助活動の危機管理体制の強化」「適切な土地利用の推進・快適な住環境の整備誘導」「道路の整備と管理」「地域交通の確保」となっているため、優先的な改善が求められる。 今後、都市計画マスタープランや公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に基づいて、適切な土地利用やインフラ等の整備に努め、公共施設については、適切な配置に向けた再編を進め、町民にとって安全・安心な利便性の高い拠点を形成する。また、誰もが安全で安心して快適に暮らすことができるように、災害時における自助・共助・公助のバランスのとれた防災力・減災力の向上を図るとともに、住民の主体的な関与と地域の理解を得ながら、今後求められる地域交通の確保に努める必要がある。</p>	

外部評価[まちづくり評価委員会]	
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	B
意見等	<p>公共施設の統合・改修や未利用町有地の有効活用を目指す公共施設再配置計画を策定し基盤が整えられたことは評価できる。しかし施策や整備計画の推進にあたり、財政面の懸念、町民生活への影響などの不安から町民の理解を得られているとはいえず、推進するためには改善が必要である。</p> <p>○ 東日本大震災から8年が経過し、地震への防災意識が薄れる中、気象変動等による自然災害全般のリスクは二宮町でも高まっている。危険個所の整備や子どもの安全対策を早急に進める必要がある。また、防犯の観点からも、対策の実効性を高めるため、地域や町民と町が協働して、安全なまちづくりを進めることが大切である。 【重点的方針 施策3-1】</p> <p>○ 公共施設の総合的なマネジメントは最も注目されている施策の一つと言える。特に庁舎の移転については、検討が進んできているものの町民の理解がどこまで得られているのかは疑問である。耐久性、利便性を高めつつ、町の財政状況にも配慮し、町民との丁寧な対話を重ねたうえで公共施設整備を進めることが望ましい。 【重点的方針 施策3-2】</p> <p>○ 秦野二宮線を軸として交通アクセスの利便性はあるものの、車利用者とは違う人との移動における利便性の格差が広がっている。今後の少子高齢化や公共施設の再配置、庁舎移転を念頭に、誰もが移動手段を確保できる公共交通の交通網の整備を進める必要がある。 【重点的方針 施策3-2】</p> <p>○ 緊急性や必要性が高い課題に対して、重点的に取り組むべく、予算や人員を適切に配置し、ポイントを絞って推進していく努力が大切である。 【重点的方針 施策3-2】</p> <p>この政策は長期的なスパンでの取り組みや計画が求められる。町は常に町民の声に耳を傾け、対話を深めることにより町民の十分な理解を得ながら事業を推進していく姿勢が求められる。</p>

町の最終方針[庁内評価委員会]	
A: 妥当性、有効性、効率性は良好のため、引き続き政策を推進する B: 妥当性・有効性・効率性は良いが、一部改善し推進する C: 政策を推進するためには、施策を改善する必要がある D: 政策全体を見直す必要がある	B
方向性	<p>基本構想「交通環境と防災対策の向上」については、外部評価において取り組みや成果について評価された施策もあるため、これまでの取り組みをベースに、施策を一部改善し、次の通り推進する。</p> <p>誰もが安全で安心して快適に暮らすことができるよう、長期的な取り組みを見据え、公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に基づく適切な整備を推進するとともに、町と地域、町民との協働による自助・共助・公助のバランスのとれた防災力・減災力の向上を図る。そのため、常に町民の声に耳を傾け対話を深め、町民の十分な理解を得ながら事業を展開する。</p> <p>重点的方針3-1においては、自然災害等のリスクが高まりつつあるため、危険個所の整備や子どもの安全対策を推進するとともに、地域や町民との協働による安全なまちづくりの体制を強化する。</p> <p>重点的方針3-2においては、庁舎の移転を含め、町民との丁寧な対話を重ねた上で、公共施設の整備を推進する。また、少子高齢化や公共施設の整備等を考慮しつつ、誰もが移動手段を確保できる地域公共交通の整備を進める。なお、施策の推進にあたっては、財政状況や人員配置等を考慮した上でポイントを絞りながら、緊急性や必要性の高いものに対して、重点的に取り組んでいく。</p>